

関西現代音楽交流協会 (KMMA)

第 51 回現代音楽作品の夕べ

2016年5月21日(土) 17:00 開演 (16:30 開場) トントレフ・ヒコ
主催：関西現代音楽交流協会(KMMA) 後援：大阪音楽大学 大阪音楽大学同窓会《幸楽会》
大阪成蹊大学 大阪成蹊短期大学 東京藝術大学音楽学部同声会兵庫支部
協力：トントレフ・ヒコ

ご挨拶

本日は、関西現代音楽交流協会の演奏会「第 51 回現代音楽作品の夕べ」にお越しください誠にありがとうございます。

当協会は、音楽文化の普及と発展に寄与することを目的に 1986 年に設立されました。今年で創立 30 年を迎えましたが、その活動は必ずしも順調であったわけではありません。2001 年からの 4 年間は、出品・出演希望者が少ないために演奏会を開催することができず、また会員数の減少が続いておりました。しかし、田中邦彦 前々委員長による体制の刷新と、大澤弘之 前委員長による組織の整備、また内藤正彦 現事務局長をはじめとする役員諸氏の尽力により、当協会の活動が社会的に一定の評価を受けるようになり、会員数も飛躍的に増加しました。今後も、現代の音楽文化に影響のある積極的な活動を展開する所存です。

本日の演奏会のプログラムは、作曲家と演奏家の会員相互の交流と協力、また会員以外の方々の暖かい賛助によって構成されています。それぞれの作品と演奏を通じて表現される魅力的な世界を、最後までお楽しみくだされば幸いです。末筆ながら、本日の演奏会にお越しくございました皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈りいたします。

関西現代音楽交流協会委員長
永田 孝信

プログラム

久保 英子 作曲

チェロのために

チェロ：齊藤まどか

山本 裕之 作曲

無伴奏ユーフォニアムの為のギンコビロバ (2008)

ユーフォニアム：川原みきお

澤田 博 作曲

中原中也の詩による5つの歌曲 (改訂初演)

1.夏の夜 2.湖上 3.冷たい夜 4.女 5.春

メゾ・ソプラノ：児玉祐子 ピアノ：澤田博

永田 孝信 作曲

マリンバのための3つの断章

マリンバ：相澤睦子

=休憩=

川合 清裕 作曲

サントゥールとピアノのための小品

サントゥール：内海恵 ピアノ：川合清裕

岡田 正昭 作曲

スペインの風

メゾ・ソプラノ：堀口梨絵 ピアノ：遠藤桂子

H. ホリガー (H. Holliger) 作曲

(t)air(e) pour flûte seule (1980/83)

フルート：大升良美

=休憩=

森川 陽子 作曲

emo.

クラリネット：武田仁 ピアノ：森川陽子

近藤 浩平 作曲

麦草峠のギター 作品 151 (2015) より

第1曲：午後の草原、第3曲：雨の針葉樹、第6曲：縞枯

第7曲：ゴーロの秋、第8曲：稲子岳の凹地

ギター：坂場圭介

松浦 伸吾 作曲

Party I & II for Flute Quartet (2016)

フルートカルテット ef4 尾崎則子、野原剛、橋本真美、松前佳代

演奏会終了後にワイン小レセプションがございます

曲目解説 / プロフィール

久保 英子 作曲

チェロのために

今回はピアノを使用しなかったもので、今までと違う面で少々苦勞いたしました。曲そのものは全部で6楽章からなっています。1と2楽章は *attacca* でつながっていてそのまますべり込みます。そして2楽章までと変わり、休符の全くない3楽章へと続きます。4楽章で音をじっくり響かせてから、5楽章のエチュード風の曲へとつなげて、最終6楽章でさわやかに閉じる、といったニュアンスで全体をまとめています。

6楽章各々が似た雰囲気にならぬ様心掛けて作曲いたしました。

<作曲：久保 栄子（くぼ えいこ）>

大阪音楽大学短期大学部作曲専攻卒業。

東京にて作曲グループ *Le Phenix* のメンバーとして、又、その後関西にて個展を開く。

関西現代音楽交流協会会員。

<チェロ：齋藤 まどか（さいとう まどか）>

大阪教育大学教養学科芸術専攻音楽コース卒業。チェロを武藤俊介、田中次郎、大木愛一、A. スコッチ、L. フランツェッティ、V. コチの各氏に、室内楽をL. フランツェッティ、田口朝子の各氏に師事。第11回大阪国際音楽コンクール、第13回大阪国際音楽コンクール共に弦楽器部門 Age-Gにて入選。現在は関西を中心にフリーランス奏者としてソロ、室内楽、イベント演奏、オーケストラなどで幅広く活動中。OBE カルテット所属。

山本 裕之 作曲

無伴奏ユーフォニアムの為の《ギンコビロバ》（Ginkgo bilobé）（2008）

《ギンコビロバ》は私が初めてユーフォニアムのために書いた作品で、微分音、重音、ハーフヴァルヴ、ベンディング等、委嘱者の小寺香奈さんと協同で開発しとりまとめたこの楽器のための拡張奏法をふんだんに盛り込んでいる。一方で、私は普段の自分にとって重要な作曲上のテーマである「音の曖昧性」をこの曲を書くにあたって意識した。当然ながら拡張奏法は、従来の奏法に比べて聴覚上の曖昧な音を発生させやすい。つまりこの曲において拡張奏法の積極的な使用は、「音の曖昧性」をこの楽器上で探求した末の帰結ともいえる。

<作曲：山本 裕之（やまもと ひろゆき）>

1967年生まれ、神奈川県出身。1992年東京芸術大学大学院作曲専攻修了。在学中、作曲を近藤譲、松下功の両氏に師事。武満徹作曲賞第1位(2002)、第13回芥川作曲賞(2003)。作

品は日本、ヨーロッパ、北米等を中心に演奏されている。1990年より作曲家集団《TEMPUS NOVUM》に参加、2002年よりピアニスト中村和枝氏とのコラボレーション《claviarea》を行うなど、様々な活動を展開している。Ensemble Contemporary α（東京）、音楽クラコ座（名古屋）各メンバー。現在、愛知県立芸術大学准教授。作品の一部はM. A. P. Editions（ミラノ）から出版されている。<http://japanesecomposers.info>

<ユーフォニアム：川原 みきお（かわはら みきお）>

パリ高等音楽院 サクソルン・ユーフォニアム科を日本人として初めて首席で卒業。アンサンブル・アンテルコンタンポラン（仏）、J. McMANAMA、G. BUQUET 両氏のもとで特殊奏法を学ぶ。2000-01年（財）ヤマハヨーロッパコンクール1位。第6回ルーマニア国際音楽コンクール管楽器部門において金管唯一のファイナリストに残り、最高位を得てサントリーホールでの入賞者披露演奏会に招かれる。川上統、平野達也、棚田文則他、初演活動を通しレパートリーの拡大に力を注ぐ。関西現代音楽交流協会会員。

<https://lartysm.wordpress.com/>

澤田 博 作曲

中原中也の詩による5つの歌曲（改訂初演）

1. 夏の夜 2.湖上 3.冷たい夜 4.女 5.春

中原中也の詩は、音を受け入れてくれるかどうか迷うことが多い。それでも中也の詩と取り組むのは、その詩が言葉の裡に温かいものを持っていると感じるから。たとえ書かれた言葉が冷たく響き、時に冷笑的であるとしても。それは、孤独な感情を人に見せまいとする詩人の優しさから出てくるものなのかもしれない—このことが、中也の詩に惹かれる理由であろうと思っている。

今回は、昨年4月に奈良で発表した4曲に、新しく「女」を追加した改訂版—歌が一層の拡がりを見せるようピアノ・パートを整理した一で演奏する。「夏の夜」へ長調、4/4；「湖上」イ長調、5/4と3/4；「冷たい夜」ト短調、4/4；「女」変ロ長調、6/8；「春」変ニ長調とト長調、2/2と9/8など。演奏は、前回と同じく敬愛する児玉祐子さんをお願いした。児玉さんが前回以上に中也の世界を表出してくださることを願って。

<作曲・ピアノ：澤田 博（さわだ ひろし）>

東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。東京藝術大学大学院音楽研究科修了。宝塚音楽工房所長。関西及び東京において、歌曲・室内楽作品を中心に作曲活動を展開している。拡大された調性による現代的感性の表出を目指しており、特に歌曲においては大阪式アクセントによる作曲を長年試みている。1988年「深尾須磨子生誕100年音楽祭作曲コンクール」最優秀賞並びに優秀賞、1995年大阪文化祭賞奨励賞を受賞。関西現代音楽交流協会、国際芸術連盟各会員。

<メゾ・ソプラノ：児玉 祐子（こだま ゆうこ）>

大阪音楽大学卒業。関西二期会を中心に多数のオペラに出演し好評を博す。その他第九や宗教曲のアルトソロ、各種演奏会やリサイタル等の演奏活動を続けている。現在、京都女子大学・相愛大学・大阪音楽大学・大阪夕陽丘学園高等学校・滋賀県立石山高等学校、各非常勤講師。関西二期会理事。日本シューベルト協会・日本演奏連盟各会員。

永田 孝信 作曲

マリンバのための3つの断章

演奏を快くお引き受けくださった世界的に活躍される相澤睦子氏に感謝します。この作品は次の短い3曲で構成されます。

第1曲 Allegro giocoso (快速に、おどけて)。白雪姫に登場するごきげんで愉快的な「こびと」と、怒りんぼうの「こびと」との架空の対話。(約4分)

第2曲 Adagio espressivo (落ち着いてゆっくり、表情豊かに) 目覚めようとするが、眠り続ける「いばら姫」。(約2分)

第3曲 Allegretto (やや速く)。秘伝のたれをつくる魔法使いのおばあさんの調理。様々なものが刻まれて大鍋に投げ入れられ、沸き立って濃厚に仕上がっていく。(約3分)

<作曲：永田 孝信（ながた こうしん）>

大阪音楽大学大学院修士課程(作曲)修了。近藤圭、田中邦彦、ルドルフ・ケルターボーンの各氏に師事。訳書に『和声法 考え方・学び方・解き方』『音楽の表現形式』『指揮法 - 理論と実践 -』(何れもシンフォニア刊、田中邦彦氏との共訳)。関西現代音楽交流協会会員。

<マリンバ：相澤 睦子（あいざわ むつこ）>

6才よりマリンバを始め、大阪音楽大学首席卒業後、テレビ朝日「おはよう6」のマリンバ奏者を1年間勤める。その後渡欧して、世界のマリンバのメッカとして有名なドイツはシュトゥットガルト音楽演劇大学大学院で2年半在籍して研鑽を積む。その後も在独にてヨーロッパを中心に、有名フェスティバル、テレビやラジオなど幅広い音楽活動をする。プラハ芸術アカデミーとミュンスター音楽大学で教鞭をとる。作曲家を題名にしたCDなどを沢山リリース。最近では、自信の作曲を発表する傍らインプロビゼーションもしている。

川合 清裕 作曲

サントゥールとピアノのための小品

サントゥールはペルシャの伝統楽器であり、エキゾチックでエモーショナルな音色が特徴的です。その唯一無二の音色だけでも十二分に魅力ある楽器なのですが、この楽器に更なる

可能性を見いだしたいと思うのも作曲する者の性であります。

サントゥールは“打弦楽器”であり、打楽器と弦楽器、両方の特性を併せ持っている点をいかしたアプローチが可能です。今作品では打楽器的な表現であるデッドストロークと、弦楽器的な表現であるハーモニクスを使用しました。ハーモニクスは音色的変化もさることながら、実質 27 音しか設定することのできないこの楽器にとっては、ピッチの可能性も押し拡げてくれることとなりました。また、自らで調弦をできる、という特性も現代の音楽に向いていると感じました。今回はいくつかの微分音と、特殊なチューニングによる 2 種類の効果音的音響を設定しました。尤も、微分音はペルシャの音楽では日常的に用いられるものであり、特殊でもなんでもありませんが。

本曲は非常にわかりやすくポップで、芸術的な深みは全くありませんが、誰が聴いても楽しめるもの、21 世紀のサントゥールの新たなレパートリーとなるようなものを目指して作りました。

<作曲・ピアノ：川合 清裕(かわい きよひろ)>

大阪音楽大学音楽学部作曲専攻卒業。卒業時に褒賞として優秀賞を授与される。これまでに作曲を高昌帥、永田孝信の各氏に、ピアノを土井緑氏に、サントゥールをプーリー・アナビアン氏に師事。第 32 回現音作曲新人賞受賞(弦楽四重奏作品)、第 8 回 JFC 作曲賞コンクール、第 3 回洗足現代音楽作曲コンクール B 部門(鍵盤楽器作品)、各入選。関西現代音楽交流協会会員。

<サントゥール：内海 恵(うつみ けい)>

大阪音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業。これまでピアノを太田康子、芹沢文美氏に師事。日本イタリア協会主催第 3 回 Concorso MusicArte 奨励賞。テアトロオリンピコ国際音楽祭に参加。在学中にペルシャ伝統楽器サントゥールに出会い、プーリー・アナビアン氏に師事。

岡田 正昭 作曲

スペインの風

ガルシア・ロルカはスペインを代表する詩人、劇作家で、三島由紀夫をはじめ、日本でもその魅力に惹かれた人は多い。彼自身も日本の俳句に影響を受け、その作品の隕の美しさは際立っている。フランコ政権下での悲劇的な死は、彼の自由奔放な詩にいつそう影を落とす。この二つの詩はジプシーの娘のおおらかな恋の歌で、断片的にロルカ自身がメロディーとギターの伴奏を残している。今日の演奏は補足、また新たにピアノの伴奏にしたもので編曲になります。

二曲のサフランを詠んだ歌は、宮田滋子さんの詩に共感していただいた岩原陽子さんに詩を作って頂き、連詩の曲と言うかたちになります。

サフランを摘む娘の屈託のない恋心をスペイン風な、原色的な色彩をもった
歌曲にいたしました。

世界をまたに活躍している堀口梨絵さん、今回の難しい伴奏を引き受けて頂きました
遠藤桂子さんお二人に感謝申し上げます

<作曲：岡田 正昭（おかだ まさあき）>

大阪音楽大学大学院修了。

「日本作曲家協議会」「国際芸術協会」「日本童謡協会」等会員。

音楽之友社より「岡田正昭歌曲集」他合唱曲など出版。

TIAA 全日本作曲家コンクール連続入賞、牧野由多可賞大賞、洗足現代音楽作曲コンクール、
トロンボーンピース・オブ・ザ・イヤヤー2014 作曲賞、日本歌曲コンクール、東京国際歌曲コン
クール入賞等。近年、室内オペラシリーズを発表し、演奏、出版を続けている。

関西現代音楽交流協会会員。

<メゾ・ソプラノ：堀口 梨絵（ほりぐち りえ）>

大阪音楽大学卒業。2007 年国立フライブルグ音楽大学リート・オラトリオ科、オペラ科卒
業。芸術家国家資格取得。2010 年スイス国立ベルン音楽大学院オペラスタジオ卒業。

長江杯国際音楽コンクール1位、大阪国際音楽コンクール2位受賞。2013年アジア国際音
楽コンクール金賞（銀賞なし）。現在、ドイツ、イタリア、スイスにて活躍中。永井和子大
阪音楽大学名誉教授、エヴァ・ブランケルマンドイツ国立フライブルグ音楽大学名誉教授の各
氏に師事。ピアチェーレ代表。

<ピアノ：遠藤 桂子（えんどう けいこ）>

大阪音楽大学大学院ピアノ研究室修了。第20回日本ピアノコンクール全国大会第1位。モ
ーツァルト室内管弦楽団と共演。ザ・フェニックスホールにてリサイタル開催。北九州芸術
祭、蓼科音楽祭、アプラホール柿落公演、日本作曲家協議会主催第16回・第17回アンデパ
ンダン東京公演等で演奏。ピアノを川上孝子、小林峯介、青柳いづみこの各氏に師事。箕面
学園高等学校専科講師。同学園福祉保育専門学校講師。大阪活性化推進総研演奏員。大阪音
楽大学演奏員。

H. ホリガー (H. Holliger) 作曲

(t)air(e) pour flûte seule (1980/83)

ホリガー（1939年スイス生まれ）は、オーボエ奏者としてクラシックの世界に名を馳せた
が作曲家としても広く知られており、ブーレーズの書法を継承して「オーボエ・ヴィオラ・
ハープのための三重奏曲」「7つの歌」などの優れた作品を20代で書き上げた。70年代に、
自らの経験を踏まえながら、新たな楽器奏法を追究して音色の可能性を最大限に引き出した

<プネウマ><弦楽四重奏曲><プサルム><アーテムボーゲン>などの傑作群は、現代音楽史に欠くことができない程の存在感を示している。本日演奏する「(t)air(e)」は、ヘルダーリンのテキストに基づく合唱と室内管弦楽を伴う連作「スカルダネリ・ツィクルス」(1975-91)の中の一曲であり、彼の友人でフルーティストのオーレル・ニコレとの共同作業によって書かれた。題名は、「TAIRE」と読めばフランス語で「沈黙を保つ、包み隠す」等の意味で、「AIR」と読んでも、空気、アリア、雰囲気、等の意味を供えている。当時としては画期的な様々な奏法のコンビネーションによる精緻な音楽であり、後続のフルート音楽に大きく影響を及ぼしている。

<フルート：大升 良美（おおます よしみ）>

愛知県立芸術大学音楽学部器楽科卒業。近年現代音楽の分野に力を注いでおり、多くの初演作品に携わっている。最新の初演は川合清裕「拡散の様相～フルートとヴァイオリンのために～」。来月東梅田教会で開催される「深新會関西 第25回作曲作品展」に於いて、熊谷美紀氏の「「舞い」フルート独奏のために」を初演予定。2009年第二回 jfos フルートアンサンブルコンクールに於いて最優秀賞受賞。平成23年度関西現代音楽交流協会演奏賞受賞。2012年7月、ワルシャワフィル・コンサートマスターズと共演。2013年リサイタル開催。ランコントルフルートカルテット、ひまわりくいんてっと、YOSHIssimo各メンバー。ESA音楽学院、奈良県立高円高等学校各非常勤講師。関西現代音楽交流協会役員。

森川 陽子 作曲

emo.

emo. =emotion とは、(時に身震いするような)強い感情、感動、情動等の意味を持つ。私たちは日々、様々な emo. を抱えながら過ごしている。

emo. はいつも突然発生し、私たちのその後の行動を強力に動機づける。emo. を失えば日々は途端に色褪せるが、増幅し、暴走する emo. は破滅をもたらす。

風が起こる。ざわつく。ふるえる。あわ立つ。揺り動かされる。かき回される。引きずられる——

emotion—苦痛を伴った甘美—に、今日も私たちは翻弄される。

<作曲・ピアノ：森川 陽子（もりかわ ようこ）>

大阪音楽大学、同大学院修了。作曲を近藤圭、作曲とピアノを久保洋子の各氏に師事。第20回現音作曲新人賞(2003)、第28回日本交響楽振興財団奨励賞(2006)受賞、第77回日本音楽コンクール作曲部門入選、岩谷賞(2008)受賞、“TACTUS”(Young Composer Forum/ベルギー / 2011)入選。

代表作に【CHIAROSCURO（フランス・フルート・オーケストラ委嘱作品）】、【DISTANCE（アンサンブル・プロトン・ベルン委嘱作品）】等。

現在、大阪音楽大学非常勤講師。関西現代音楽交流協会会員。

<クラリネット：武田 仁（たけだ じん）>

クラリネットを17歳より始める。大阪音楽大学を経て仏パリ市立12区音楽院にて更なる音楽の研鑽を積み、クラリネット・ピアノ・室内楽において全て一等賞を受賞して卒業。第11回「欧日音楽講座」にて、ビュッフェ・クランポン奨励賞受賞。クラリネットを本田耕一氏、ミシェル・アリニョン氏に師事。

現在、大阪音楽大学講師。

近藤 浩平 作曲

麦草峠のギター 作品 151 (2015) より

第1曲：午後の草原、第3曲：雨の針葉樹、第6曲：縞枯

第7曲：ゴーロの秋、第8曲：稲子岳の凹地

2015年の初夏に、友人と北八ヶ岳の森と池と山を歩いた。雨の日、麦草ヒュッテの広い屋根裏部屋で過ごした。屋根裏部屋には、普段、あまり弾かれていないピアノがあり、ほかに登山者もいないので弾いて楽しんだ。小屋にはギターもあり、友人が少しかき鳴らしてみた。こうして、山小屋で演奏して楽しむための音楽という着想が生まれ、この「山小屋音楽」が生まれた。

麦草峠は、森と湖の風景で知られる北八ヶ岳にある標高2120mの峠。ここにある山小屋、麦草ヒュッテの周囲は草原になっている。

<作曲：近藤 浩平（こんどう こうへい）>

2010年ベルリン・ドイツ・オペラ《Klang der Welt Ostasien(世界の音・東アジア)》作曲コンクール第2位(室内楽)。左手のピアノ曲は智内威雄氏、館野泉氏による演奏機会が多く、ベルリンのフィルハーモニーでも演奏された。作品はブダペスト祝祭管弦楽団室内楽シリーズ、国際ワグナー協会総会など世界各地で演奏されている。ギター、ピアノやヴィオラの協奏曲や、野村誠氏とのコラボレーションによる鍵盤ハーモニカ作品もある。震災の追悼作品「海辺の祈り」は世界各地で演奏されている。2016年9月にはアリゾナ州で約1週間にわたるKondo Festivalが開催される。

日本現代音楽協会、日本作曲家協議会、関西現代音楽交流協会会員。<http://koheikondo.com>

<ギター：坂場 圭介（さかば けいすけ）>

シカゴ・ルーズベルト大学音楽学部ギター科修士課程卒業。クラシックギターを寛優、アルベルト・ポンセ、デニス・アザバギッチ各氏に師事。学生の頃より国内外の多くのコンクー

ルで入賞する。これまでに東京交響楽団、ベトナム国立交響楽団と協奏曲を共演。また、講習会、執筆、翻訳、コンクールの運営・審査などの方面でも活躍している。日本ギター連盟正会員、日本ジュニアギター教育協会副会長、ギター・リーダーズ・クラブ会員。

松浦 伸吾 作曲

Party I & II for Flute Quartet (2016)

新村出編『広辞苑 第六版』(岩波書店) より抜粋

①党。政党。②組。一行。特に、登山隊。③社交のための集まり。宴会「カクテル・ー」

小西友七編『ジーニアス英和辞典』(大修館書店) より抜粋

㊦ 1 パーティー, 社交的な会, 集まり:

2 党, 政党, 党派, 派閥; ㊦ 党派心:

3 [単数・複数扱い; しばしば複数語で] (行動を共にする) 一行, 一団, 連中, 仲間; 一味, 味方; 〔軍〕小部隊:

4 ((正式)) [事件・契約などの] 相手, 当事者, 関係者; 共犯者 [to, in]:

5 ((略式)) [おどけて] (問題 [話題] の) 人:

6 ばか騒ぎ.

7 [形容詞的に] 政党の, 党派 [派閥] 的な; パーティー (用) の; […に] 関与する [to] (用途は → 4):

上記の内容から二つ選びました。

<作曲: 松浦 伸吾 (まつうら しんご) >

大阪音楽大学大学院修了(作曲)。作曲を近藤圭と久保洋子の各氏に師事。2003年度全日本吹奏楽コンクール課題曲入選、第71回日本音楽コンクール作曲部門第2位、第28回回音音新人賞入選及び富樫賞、第2回国際アルケマ作曲コンテスト第1位等、入選・入賞多数。財)ロームミュージックファンデーション音楽特別在外研究生、大阪音楽大学音楽博物館研究技術員等を経て現在、洛南高等学校・附属中学校音楽科講師。関西現代音楽交流協会・(社)日本作曲家協議会・日本音楽教育学会・日本音楽表現学会各会員。近年の出版物に”Midnight”(Edition MatchingArts)、『27人の作曲家によるピアノ小品集「こどもたちへメッセージ2016世界のごちそう編-1」』(カワイ出版)等がある。<http://shingo-matsuura.net>

<フルート: 尾崎 則子 (おざき のりこ) >

奈良県立高円高等学校音楽科、大阪音楽大学音楽学部、同大学専攻科を経て同大学大学院終了。第12回全日本クラシック音楽コンクール全国大会第3位。現在島村楽器講師、大阪音楽大学演奏員。

<フルート：野原 剛（のはら ごお）>

大阪出身。7歳よりメキシコ人音楽家であるアグアヨ・ホセ・ルイスに音楽基礎教育とリコーダーを学ぶ。14歳よりフルートを始める。奈良県立高田高等学校音楽科を経て大阪音楽大学卒業。在学中渡英。フルートを高橋成典、中務晴之、山腰直弘、多久潤一郎、ミハエル・ファウスト、室内楽を宮本謙二、指揮を松尾昌美、デービット・ハウエルに師事。現在、フルーティスト、指揮者、プロデューサー、教育家として全国規模で活躍中。

<フルート：橋本 真美（はしもと まみ）>

奈良県立高田高等学校音楽科を経て大阪芸術大学演奏学科卒業。フルートを高橋成典、山本恭平の各氏に師事。現在、音楽教室等のフルート講師として指導に携わりながら、オーケストラや室内楽などさまざまな演奏会にて活動中。

<フルート：松前 佳代（まつまえ かよ）>

奈良県高田高等学校音楽科を経て大阪音楽大学卒業。フルートを高橋成典、長山慶子の各氏に師事。

<フルートカルテット ef4>

奈良県立高田高等学校音楽科のフルート専攻である同級生の4人で結成された四重奏団。高校在学中に結成され当時は“コンフォームール”という名で演奏活動を行っていた。高校卒業後はメンバーそれぞれが個人の進路に則って音楽大学に進み研鑽を積み、卒業後はそれぞれの強みを生かし専門であるフルートはもとより伴奏ピアニスト・オカリナ奏者・ファイフ奏者・指揮者・作編曲者・教育者等として活動するが、フルート四重奏団としての4人での活動は今まで変わらず継続。その内容は料亭での演奏・映画祭とのコラボレーション・ラジオ出演・東大寺奉納演奏など多岐にわたる。

【関西現代音楽交流協会について】

関西現代音楽交流協会は現代音楽を志す人達の交流の環を広げ、その活動を活性化することにより音楽文化の普及と発展に寄与することを目的として1986年に設立されました。

主に関西を音楽活動の中心とする者が会員となっており、現在その数は作曲会員・演奏会員合わせて101名です。これまでに作品発表と演奏活動の場である演奏会「現代音楽作品の夕べ」を、50回主催してきました。

公式ホームページ <http://kmma.web.fc2.com/>

【会員募集】

関西現代音楽交流協会では、現在作曲会員・演奏会員を募集しています。入会すると本会が主催する演奏会「現代音楽作品の夕べ」に出品・出演することができます。本会に関心を持たれた方は、本演奏会終了後のレセプションにて会員までお問い合わせください。